# 第２３回宝塚市子ども議会

# 提案・要望事項への対応状況について

令和８年（２０２６年）３月

宝塚市

# 目　次


| | | | |
|---|---|---|---|
| 丸橋小学校 | ６年 | 松本　翔 | ・・・１ |
| 末成小学校 | ６年 | 近藤　春翔 | ・・・２ |
| 美座小学校 | ６年 | 炭田　龍志 | ・・・３ |
| 光明小学校 | ６年 | 小山　諒 | ・・・５ |
| 高司小学校 | ６年 | 柳本　龍之介 | ・・・６ |
| 山手台小学校 | ６年 | 稲田　柊汰 | ・・・７ |
| 関西学院初等部 | ６年 | 中串　龍正 | ・・・９ |
| 安倉中学校 | ３年 | 西川　瀬菜 | ・・・１１ |
| 安倉小学校 | ６年 | 池地　夏菜 | ・・・１３ |
| 御殿山中学校 | ３年 | 武田　奈々 | ・・・１４ |
| 光ガ丘中学校 | ３年 | 秋山　花 | ・・・１６ |
| 山手台中学校 | ３年 | 宮本　悠史 | ・・・１８ |
| 雲雀丘学園中学校 | ３年 | 北川　亜咲 | ・・・１９ |
| 養護学校（高等部） | １年 | 加納　あかり | ・・・２１ |
| 宝塚東高等学校 | ２年 | 坂元　優太 | ・・・２２ |
| 小林聖心女子学院高等学校 | ２年 | 澤邉　莉桜 | ・・・２３ |

担当部：環境部（生活環境課）

| 議員名 | 松本　翔 | テーマ | ポイ捨て・落書き |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

わたしはたからづかしのいろんなところでポイすてをみかけます。ポイすてをなくすために、みんなでごみをかいしゅうしたり、みんなにポイすてをしないようによびかけることをかんがえました。

ポイすては、衛生的に悪く、見た目も汚いので、子どもが生活する上で、あまりよくないと思います。

わたしは、ポイすてをなくすために、宝塚清掃だけでなく、春・夏・秋・冬と１回ずつしてほしいです。（できれば「宝塚市ポイすてやめようデー」をつくって、みんなでいっせいにゴミをひろうかつどうをしてみたいです。）

**答弁：**

「宝塚市ポイすてやめようデー」を作って、みんなで一斉にゴミを拾う活動をしてみたいとのご提案につきましては、本市では、1982年度から毎年5月と11月に市民の皆様と市がともに「宝塚を美しくする市民運動」を実施しています。

この運動は、市内全域で取り組む活動として、道路や公園などの清掃を一斉に市民の皆様に行っていただき、市がそのごみや土砂を回収するものです。この運動の中で、ぽい捨てをしないことを呼び掛ける啓発も行っていきたいと考えています。

現在、この運動については、広報誌や自治会内の回覧などでお知らせしていますが、ポスターの掲示や自動車を使って市内を回って放送することについても検討していきます。

松本議員のご提案のとおり、ぽい捨てを無くすことで、きれいな環境で、子どもが住みやすいまちづくりに努めていきます。

**進捗状況：**

完了

**進捗状況説明欄：**

令和６年１１月に行った「宝塚を美しくする市民運動」に合わせ、広報車を使って市内を放送して回りました。これからもぽい捨てが無くなるよう啓発を続けていきます。

環境部（生活環境課）

担当部：都市安全部（公園河川課）

| 議員名 | 近藤　春翔 | テーマ | ガードレール（さく）を増やしてほしい（とくに公園の前） |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

　ぼくは、この子ども議会でガードレールをとくに公園の前に増やしてほしい、という提案をしたいと思います。
　なぜ、このような提案をしたいと思ったかというと、前に友達と公園でボールを使っていたら、ボールが手からすべってしまい、道路にとびだして、通りかかった車にボールをつぶされてしまうことがおきてしまいました。このようなことがおこってしまった理由は、ボールを止められるものがなかったからです。公園の出入り口前には、ガードレールやさくなどがなく、そのままとびだしてしまいました。このままでは、ガードレールやさくなどが少なくさっき出てきたボールや小さな子どもが道路にとびだしてしまうきけん性があります。それにボールがころがったままだと、車のじゃまになってしまい、ボールのせいで大きな事故がおきてしまう可能性もあります。
　このようなことがおきないために対さくを提案します。
　１つ目はガードレールを増やすという方法です。しかしガードレールはお金がかかると聞いたことがあるので、あまり現実的ではないと思います。そこで２つ目の提案をしたいと思います。２つ目の提案は公園の前にドッグランにあるような低めのさくをつけることです。もちろん出入りできるものです。このさくをつけることによって、ボールが出ることを防ぐことができるし、小さい子どもが道路にとびだしにくくなると思います。

**答弁：**

　ガードレールを公園の前に増やしてほしいとのご提案につきましては、本市が管理する公園については、ボールなどの飛び出しを防ぐために、道路や民地との境目は柵や生垣で周囲を囲っています。しかし、出入り口については、高齢者や車いすの方、ベビーカーを押した親子など、誰でも自由に公園に出入りできるよう柵などは設けておらず、車両の進入を防ぐ車止めや、小さな子どもの道路への急な飛び出しを防ぐポールを設置しています。
　これまで近藤議員が経験されたように、公園の外にボールが出てしまう可能性がある場合は、公園でのボールの利用方法について、看板の設置などにより注意を促していく必要があると考えています。
　また、ご提案された公園の前にドッグランにあるような低めの柵を付けることについては、先程お答えしたとおり、車いすの方やベビーカーを押した親子の通行を妨げますので、地域の方とも良く話し合った上で、公園出入り口の通行を妨げない範囲で簡易的な柵やネットを付けられるよう検討をしていきます。

**進捗状況：**

継続

**進捗状況説明欄：**

　答弁のとおり、地域の方の意見を踏まえて、公園でのボール利用方法に関する注意喚起看板や簡易的な柵やネットの設置を行っています。

都市安全部（公園河川課）

担当部：都市安全部（道路管理課・公園河川課）

| 議員名 | 炭田　龍志 | テーマ | 宝塚市にスロープを付けたい |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

ぼくは最近、横断歩道や公園などに、段差があることが多いと思ったので、「スロープ」の追加を提案します。最近、キャリーカートを持った高れい者が段差でつまずき、転倒しかけていたのを見ました。高れい者以外にも、ベビーカーに乗っている赤ちゃんや、妊婦さんにもえいきょうすると思っています。スロープは、宝塚市を住みやすく、明るい街にするためには、欠かせないと思います。今の宝塚市にもいくつか、スロープはありますが、それでもまだ足りないと思っています。もしスロープを宝塚市にたくさん追加したら、高れい者の方、ベビーカーの赤ちゃんや、妊婦さんもとてもよろこぶと、ぼくは思っています。

**答弁：**

宝塚市の横断歩道や公園などにスロープを付けたいとのご提案につきましては、本市が管理する公園については、道路からの出入り口や公園内に段差があるところには、スロープを設置して歩行が困難な方も安心してご利用できるよう努めています。しかし、スロープを設けると広場の面積が減ってしまうこともあるため、すべての段差にスロープを設置することは難しいかもしれませんが、気づきにくい小さな段差は補修して通行しやすくするなど、段差の解消に向けて取り組んでいきます。ヒアリングの際に、ご要望いただいた市立手塚治虫記念館や市立文化創造館の南側を東西に結ぶ市道武庫川通り線にスロープを追加することや、現在設置しているスロープの傾きを緩やかにすることについてですが、この道路は歩道と車道の高低差が大きく、歩道の幅に制約があることから改良は難しいと考えています。遠まわりにはなりますが、花のみち・さくら橋公園前や、荒神川はなみずき公園前などの、歩道と車道の高低差が小さいところの利用をお願いします。

次に、協議の時にご質問いただいた、市内にスロープがいくつあるかにつきましては、スロープの数が多いため、市では把握することは困難です。

次に、スロープは許可を得ることができれば、どこにでも置くことができるかにつきましては、このご質問で炭田議員がお考えのスロープは、ヒアリングの際に確認したところ、個人宅の駐車場への乗入れの部分などに設置されている市販の段差解消ブロックでした。これを市道に置くことは、道路を通行する歩行者がつまずいたり、自動車などが乗り上げたりして危ないため、法律で認められていません。市道から自分の土地に入るところに段差がある場合は、本市道路管理課に申請手続きをしてから、段差を小さくする工事をしていただいています。

最後に、スロープのことを市で何か話されているのかにつきましては、スロープの設置について要望があった場合には、まず市の職員が現地に出向いて、道路の幅や高低差を測るなどして、全ての人に安全なスロープの設置が可能かどうかを判断します。通学路などの場合は、関係する部署とも話し合いをして、スロープの必要性について判断しています。

今回炭田議員がご要望いただいた場所のほかに、スロープが必要だと感じる場所がありましたら、保護者の方や、通学路であれば学校を通じて、本市道路管理課または公園河川課にご相談ください。

**進捗状況：**

完了

**進捗状況説明欄：**

スロープについて、引き続き適切に許可の手続きや設置の検討を行います。

都市安全部（道路管理課）

**進捗状況：**

完了

**進捗状況説明欄：**

　答弁のとおり小さな段差の補修を実施しています。引き続き、段差の解消に取り組んでいきます。

都市安全部（公園河川課）

担当部：教育委員会（学校教育課）

| 議員名 | 小山　諒 | テーマ | 思いやりにあふれた子どもたちが育つ宝塚のまちに |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

　ぼくは、よりよい集団や社会を作ろうとする力を宝塚の子どもたちに育てるために、宝塚市の小学校高学年の児童が主となって、集会活動をしたいと考えています。
　ぼくの通う光明小学校では、10年間以上全校生がたてわり班で集会活動を年に20回ぐらいしています。高学年が低学年を優しくリードすることが当たり前になっています。このことを宝塚市全体に広めたいと思い、提案することにしました。
　宝塚で育つ子どもたちが、みんな思いやりにあふれていて、だれもが宝塚で暮らせて幸せだと思えると良いなと、ぼくは思います。
　そのために、ぼく達光明小学校の６年児童が、市内の子どもや大人を招いて、楽しい集会活動をして、仲を深め合います。
　これまでぼく達がしてきた集会は、１年生を迎える会、修学旅行の前に折りづる集会、たなばた集会、歌声コンテスト、運動場の草引き集会、バナナ鬼集会、光明ショウ店街、６年生を送る会などです。
　ぼくが提案する、まず１回目の集会は、参加者も、ぼく達企画者も、充実感や達成感を味わえて、お手本になるような集会にしたいです。
それをお手本に、２回目は、いくつかの小学校で集会活動をします。その時は、ぼく達が手伝います。
　高学年の子どもが、低学年の子どもを思いやる、あたたかい宝塚市になるために、ぼくは高学年が主となる集会活動を開催したいです。

**答弁：**

　まず、市内小学校の高学年児童による集会活動をしたいとのご提案につきましては、光明小学校で10年間以上にわたり全校生で取り組んでいる集会活動は、回数を重ねる中で多くの学びがあり、非常に素晴らしく意義のある取組だと考えています。
　市内の各小学校においても、初めて学校生活を経験する1年生に、学校の楽しさを伝える「1年生を迎える会」や、修学旅行の前後に平和とは何かを伝える「折り鶴集会」、今までお世話になった6年生に感謝を伝える「6年生を送る会」など、それぞれの学校で工夫を凝らし、学年をこえた活動に取り組んでいます。これらは、上級生が責任感を持ち、交流を深め合いながら、後輩たちに様々な思いを伝えていく素晴らしい取組だと思います。
　次に、光明小学校の6年生児童が、市内の子どもや大人を招いて、楽しい集会活動をし、交流を深め合うことにつきましても非常に素晴らしいご提案だと思います。これまでも光明小学校の活動は、各小学校に紹介しており、市内の学校から、光明小学校の活動を一緒に行いたいといった話があれば、ぜひお願いしたいと思います。
　今後も小山議員のご提案のとおり、全小学校で活発に集会活動など心が通い合う取組ができるように、各小学校の工夫した取組について紹介していき、宝塚で育つ子どもたちみんなが宝塚で暮らせて幸せだと思う環境づくりに努めていきます。

**進捗状況：**

完了

**進捗状況説明欄：**

　令和６年度は特別活動共同研修会を実施し、光明小学校の特別活動の取り組みを公開研究会として発表しています。研究会には市内小学校教員、市教育委員会も出席しました。事後研修として、光明小学校の研究を発表し、特別活動の意義、効果についても、大学の教授から学ぶ機会を設定しています。そのため、光明小学校の取り組みを市内に広げる取り組みは継続して情報共有しています。

教育委員会（学校教育課）

担当部：教育委員会（スポーツ振興課）

| 議員名 | 柳本　龍之介 | テーマ | 屋内のスポーツ施設の開発 |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

僕が提案したい事は、宝塚市に大きなスポーツ施設を開発する事です。僕がいちばん問題だと思っている事は、宝塚市の子どもがどんどん減っていることだと思います。高司小学校では六年生の人数がどんどん減ってきていて、今では43人になってークラスしかありません。もっと人数が増えれば、学校が賑やかになり、より多くの友達も増えると思います。そして宝塚市の人口問題を解決するために使われていない施設、古くなったスポーツ施設、山などを使い、新たに屋内のスポーツ施設を作ることができないかと考えました。そして、なぜ屋内かというと季節や天候に左右されず足などが不自由な方でも快適にスポーツを楽しめると考えました。そして何より新たにスポーツ施設を作ることによって、子どもや大人が増え、宝塚市が賑やかになると僕は思います。僕はスケボーが好きなのですが、屋内の大きな練習場は大阪に一つしかありません。最近、新しくオリンピック種目にもなったスケボーの練習場やスケボー教室ができたら、僕は絶対に行ってみたいと思います。計画委員の仕事でオリンピック選手の玉井陸斗選手に会いました。僕は笑顔が素敵で高校生なのにオリンピックに出ていてすごいなと思いました。有名なスポーツ施設を作ることによってたくさんの子どもが集まり、オリンピックに出場するようなビッグな選手がたくさん生まれてほしいと思います。だから、僕は宝塚市に、屋内の大きなスポーツ施設の開発を希望します。

**答弁：**

宝塚市に大きなスポーツ施設を開発するとのご提案につきましては、市内には市立スポーツセンターをはじめ、全部で5か所のスポーツ施設があります。各施設では、毎年多くの利用者が、様々なスポーツを楽しまれています。

ご提案いただきました新たな屋内スポーツ施設については、市内のスポーツ施設のほか、公園や学校など、既存の施設を有効活用することで、誰もが身近なところでスポーツを楽しめる環境を整えたいと考えています。このほか、様々なスポーツのクラブチームなどでは、市外のスポーツ施設も活用し、子どもたちがスポーツに励んでいます。

このような活躍の場があることでオリンピックをはじめとする国際大会に、本市ゆかりの選手が、日本を代表する選手になっていることにもつながっていると思っています。

柳本議員の頑張っているスケートボードも含めて、多様なスポーツに取り組む子どもたちが活躍できる環境を整えていくことが、大切であると考えています。

**進捗状況：**

継続

**進捗状況説明欄：**

市立スポーツ施設では、令和７年度に武道館の空調設備の新設を行い、総合体育館の給排気設備の更新も年度末に終了する予定です。また、テニスコートの人工芝張替えやグラウンドの土壌改良などを進めています。今後も身近な公園や学校などをスポーツに活用する方法を考え、市民の皆さまがスポーツを楽しめる環境づくりに取り組みます。

教育委員会（スポーツ振興課）

担当部：教育委員会（教育研究課）

| 議員名 | 稲田　柊汰 | テーマ | 学習道具の完全タブレット化 |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

　みなさん、登下校の際に、荷物が多いな、重たいなと感じたことはありませんか。僕は、教科書やノートが多くて肩が痛いなと思うことがあります。そこで、僕が提案したいのは、高性能なタブレットを用いた、学習道具の完全タブレット化です。

　学習道具を完全タブレット化にするメリットを３つ紹介します。１つ目は、荷物が減るということです。人によっては、登下校の時間が30分以上かかってしまう人もいて、今の重たい荷物を持ち運ぶには限界があると思っています。荷物が減り軽くなれば、登下校がしやすくなると思います。

　２つ目は、環境にやさしいということです。教科書やノート、鉛筆の原材料は木からできています。完全タブレット化を目指すことで不必要な木の伐採をしなくてもよくなります。

　３つ目は、学習がより深まるということです。高性能になれば、起動も早く、時間効率が良くなります。また、机の上がタブレット１つで済むので、忘れ物がなくなったり、机の上を省スペースで活用したりすることができます。また、音声認識のアプリケーションがあれば、外国語の授業で分からなかった、アクセントやイントネーションも簡単に知ることができます。

　以上のことから、学習道具の完全タブレット化をしてほしいです。小中学生の、荷物が重すぎる問題への解決策にもなればいいなと思っています。

**答弁：**

　学習道具の完全タブレット化というご提案につきましては、小学生の登下校時の荷物の重さについては大きな問題と捉えており、その対策として、毎日持ち帰る必要のない教科書やノートについては学校に置いておく、いわゆる「置き勉」を推奨し、できるだけ荷物を減らす取組を進めています。

　教科書のデジタル化については国でも現在研究が進められており、一部の教科の教科書ではデジタル化され、使用できるようになっています。稲田議員のご提案のとおり、将来的にすべての教科の教科書がデジタル化されれば、毎日の教科書の持ち運びが必要なくなるとともに、教科書制作に必要な原材料を削減でき、森林保護にも貢献できることから、持続可能な社会を目指す上で、大切だと考えています。

　また、タブレット端末を活用することで様々な学習道具が整理され、学習しやすい環境になります。現在のタブレット端末でも音声認識などの機能が使えますので、みなさんの学習が深まるような使い方の事例を教育委員会から学校に紹介していきたいと考えています。

　なお、すべてのことをタブレット端末で学習することによる視力の低下など、健康面への影響が心配されますので、教育委員会としましては、皆さんの健康面に気をつけながら、学習効果が向上するようタブレット端末の活用を進めていきます。

**進捗状況：**

継続

**進捗状況説明欄：**

　児童生徒へ貸与している1人1台のタブレット端末は、令和8年4月から画面部分を取り外せる機種に変更します。持ち帰り時の重さを半減でき、これまでと比較して登下校時の負担軽減が実現します。教科書のデジタル化については、現在、外国語科について全ての児童生徒が使えるようになっています。他教科も国が調査研究を進めており、今後様々な教科でデジタル化が進むものと考えています。また、ICT活用については、先生への研修はもちろんのこと、小学校1年生のタブレット導入プログラムを行うなど、先生も児童生徒も端末の機能を最大限活用できるよう取り組みを進めているところです。

教育委員会（教育研究課）

担当部：環境部（生活環境課）、教育委員会（スポーツ振興課）

| 議員名 | 中串　龍正 | テーマ | 宝塚をきれいにしよう |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

僕はこの街を美しくきれいにしたいです。
なぜかというと僕が飼っている犬が時々落ちているタバコを食べようとします。動物、人にも優しい街をつくるために３つ考えました。
初めにタバコを吸う場所を作るということです。ただタバコを吸う場所をつくるだけじゃポイ捨ては減らないため、楽しくタバコを吸える場所を作りたいです。具体的にはみんなで一緒に吸って楽しいなという場所だったり１つのゲームをやってもいいと考えます。みんなが「ここで吸ってみんなと仲良くなりたい」という思考になって自然にタバコのポイ捨てが少なくなると僕は考えます。
２つ目はスポGomi in 宝塚です。スポGomiというのは１チーム３から５人で５歳以上から参加でき、各ゴミによってポイントが決められており、ポイントを競い合うゲームです。このゲームにより、みんなが楽しくゴミ拾いができ、小さい子どもにもゴミ拾いは楽しいということを植え付けることができます。
最後はジョギング＋ゴミ拾いをするプロギングという競技です。スウェーデン発祥でジョギングをしながらゴミ拾いをすることにより効率よく、楽しくゴミ拾いができます。
つまり僕はこの３つを通して、小さい子どもから大きな大人までが楽しくゴミ拾いができるようにしたり、楽しく吸える場所を作り宝塚市をきれいな街にしたいです。

**答弁：**

宝塚市を美しくきれいにするために、たばこを吸う場所を作るとのご提案につきましては、本市では、2015年7月に「宝塚市ぽい捨て及び路上喫煙の防止に関する条例」というルールを決めています。このルールにより、人通りの多いＪＲ・阪急宝塚駅及び花のみち周辺をたばこを吸ってはいけない路上喫煙禁止区域として指定しましたが、たばこを吸うことができる指定喫煙所についても、この区域内に2カ所作っています。
また、たばこを吸う人に対して、ぽい捨てをしないことや、たばこを吸うときのマナーについても啓発を行っています。
今後さらに、指定喫煙所を作っていくときには、中串議員のご提案のようにたばこを吸う人がきちんとルールを守り、喫煙所でたばこを吸うようにするには、どのようなことができるのか研究したいと考えています。

スポGOMI(ゴミ) in 宝塚とプロギングを実施したいとのご提案につきましては、ご提案いただきましたイベントは、ごみ拾いをいかに楽しくスポーツ感覚で取り組むことができるかということが基になっていると考えます。本来ごみを捨てないこと自体が望ましいですが、ご提案の活動は、健康の保持増進や人との交流につながるコミュニケーションになるとともに、子どもの頃から身近なまちの美化意識の向上にも寄与すると考えています。
本市では市内の一斉清掃を定期的に実施しており、その清掃活動において、ご提案の内容を生かすことができないか地域の方と一緒に考えていきたいと思います。
中串議員におかれましては、身近なまちの美化活動が楽しくなるこの取り組みを、学校のお友達やご家族の方にも、教えてあげてください。

**進捗状況：**

未着手

**進捗状況説明欄：**

　啓発については実施していますが、指定喫煙所を新たに整備する状況に至っておらず、研究はまだ行っていません。

環境部（生活環境課）

**進捗状況：**

調整中

**進捗状況説明欄：**

　市内一斉清掃に合わせて、プロギング等のイベントを開催できないか、地域の方にもご提案していきます。

教育委員会（スポーツ振興課）

担当部：健康福祉部（高齢福祉課）、子ども未来部（子ども家庭支援センター）、教育委員会（学校教育課）

| 議員名 | 西川　瀬菜 | テーマ | 世代を越えて共に生きる |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私は、宝塚に住んでいるご高齢の方々と、私たち子どもが、気軽に交流できるような場を作ることを提案します。

近年、高齢化が進み、老人ホームなどで働く職員の不足など、さまざまな問題があることを知りました。

また、「高齢者施設」と聞くと、介護が大変そうだというネガティブな意見が多いように感じます。そして、中学２年生で参加させていただいた、トライやるウィークでは、高齢者施設などの事業所を希望している人は少なかったという状況でした。

そういった現状から、私は、まずはご高齢の方々について交流を通じて知り合い、少しでもお互いに興味を持ち、楽しめるような場を作れたらなと思い、この提案をしました。

このような、交流を経験することで、こんな人たちをもっと支えたい！という子どもがたくさんでてくると思います。

そういった子どもたちが増えていくことで、この宝塚が、もっとお互いに支え合え、共に生きることができる、すばらしい街になっていくと思います。

**答弁：**

宝塚に住んでいる高齢の方々と、子どもが気軽に交流できるような場を作るとのご提案につきましては、核家族化が進む現代において、文化や知識、経験の伝承を通じた様々な世代との交流は、高齢者にとっては、社会参加の機会であり、子どもにとっては、生活の知恵や思いやりの心、いたわりの気持ちを育むことにつながる大切な機会であると考えています。

そのような中、本市では、老人福祉センターと大型児童センターの複合施設であるフレミラ宝塚において、高齢者と子どもの交流を育むプログラムとして、囲碁や将棋、茶道、陶芸を各同好会のメンバーから教わりながら体験する「夢のかけはしクラブ」、高齢者などから学習を教わり、子どもたちの居場所にもなっている「フレミラおさらい塾」や「夏休み宿題かたづけ隊」、クラフト遊びやバザーなどを行う「わっしょいフレミラ秋祭り」を実施しています。

このような多世代間の交流を通して、西川議員のご提案のとおり、お互いに支え合いながら、今後も誰もが安心して生活を送ることができるまちづくりを進めてまいります。

宝塚市に住んでいるご高齢の方々と、子どもたちが、気軽に交流できるような場を作るとのご提案につきましては、日頃、交流する機会の少ない子どもたちと地域の高齢者とが、一緒にお話をしたり、活動したりすることで、お互いのことを知ることができるとても良い取組だと考えます。

市内の小中学校では、「たからづか学校応援団」「たからづか寺子屋授業」「みんなの先生」として、登下校時の見守り活動、宿題等の放課後学習の補助、ゲストティーチャーとして様々な分野で講話をしてもらうなど、子どもたちと交流を行っています。

西川議員のご提案にあるとおり、今後も、高齢者を含む地域の方と、子どもたちが交流し、お互いに支え合う場を設定することで、子どもたちの豊かな成長につながる機会が充実するように取組んでいきます。

**進捗状況：**

完了

**進捗状況説明欄：**

答弁のとおり、高齢者と子どもの交流については、引き続き実施しており、今年度は新たにシニア世代と子ども・子育て世代を対象とした世代間交流セミナーを実施しました。当該セミナーについては、次年度も継続して実施するよう調整しています。

健康福祉部（高齢福祉課）、子ども未来部（子ども家庭支援センター）

**進捗状況：**

継続

**進捗状況説明欄：**

市内の小中学校では、「たからづか学校応援団」「たからづか寺子屋授業」「みんなの先生」として、登下校時の見守り活動、宿題等の放課後学習の補助、ゲストティーチャーとして様々な分野で講話をしてもらうなど、子どもたちと交流を進めているところです。ゲストティーチャー講話内容としては、食育や平和学習、音楽などです。今後も、子どもたちとの交流を深める取組を進めていきます。

教育委員会（学校教育課）

担当部：産業文化部（観光にぎわい課）

| 議員名 | 池地　夏菜 | テーマ | 宝塚の観光 |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私は宝塚の観光をもりあげるために、宝塚でたくさんあるものを有名にして、宝塚にくる観光客を今よりも増やしたいです。そのためにまず、企業と協力し、宝塚発祥であるウィルキンソンの商品のラベルに二次元コードを、そしてその二次元コードを読み込むと、宝塚市公式ホームページにうつるしくみを期間限定ですればよいと思っています。そしてホームページにガラポンを設置し、その中に宝塚の特産品を入れればいいと思います。たとえば、１等宝塚かげきB席、２等宝塚にある温泉のもと、３等炭酸せんべいなどを入れ、企業に協力してもらったりすれば、宝塚の有名なものを、宝塚をあまり知らない人にPRできるのでいいと思います。

**答弁：**

企業と連携して、ウィルキンソン タンサンの商品ラベルに二次元コードをつけて抽選で宝塚の特産品が当たる仕組みを導入するとのご提案につきましては、ウィルキンソンブランドが宝塚発祥であることのPRだけでなく、宝塚の特産品を景品にしたガラポンをホームページに掲載することで市の魅力のPRにつながる素晴らしい内容だと思います。

本市は宝塚大劇場と手塚治虫記念館が有名ですが、他にも魅力的な観光スポットや特産品が多くあります。

本市では市国際観光協会と連携して観光PRを行っており、多くの方が訪れるイベントで、観光協会のSNSをフォローしていただいた方に、ガラポンで本市にまつわる景品をプレゼントしています。

ホームページを通じて多くの方々に本市の魅力を知っていただくために様々な工夫をしていますが、ご提案のホームページ上でのガラポンのような楽しい仕掛けを導入できるよう検討していきます。

ウィルキンソンブランドとは、7月15日の「ウィルキンソンの日」をきっかけに観光のにぎわいを生み出すために商標登録を持っている企業と協定を結び、お互いに協力することを確認し合っています。

これからも全国の方々に本市の魅力を知ってもらい、宝塚のまちが多くの観光客でにぎわうよう池地議員のご提案を参考にしながら取り組んでいきます。

**進捗状況：**

調整中

**進捗状況説明欄：**

ご提案いただきました商品ラベルへの二次元コードの貼付や、宝塚の特産品を景品にしたガラポンの実施については、現在企業と調整中であり、引き続き実現に向けて前向きに取り組んでいきます。

その他、ウィルキンソン タンサンを活用した取組として、令和7年（2025年）3月29日（土）に「湯のまち宝塚タンサンフェス」というイベントを実施しました。これは、湯のまち宝塚タンサンフェス実行委員会と協力して実施したもので、宝塚温泉のPRやウィルキンソン タンサンを使ったご当地ドリンク（宝塚ハイボール・宝塚ピーチソーダ）の販売など、様々な企画を宝塚末広中央公園で行いました。

その中でも目玉企画として、ギネス世界記録™ 町おこしニッポン「お花見タンサンパーティー」を実施し、同時に炭酸を飲む人数でギネス記録（当時）を達成しました。今後もこのように、ウィルキンソン タンサンや宝塚市のPRを目的に、企業との連携を行い、宝塚市がよりにぎわいのあるまちになるよう取り組んでいきます。

産業文化部（観光にぎわい課）

担当部：都市安全部（防犯交通安全課・道路管理課）

| 議員名 | 武田　奈々 | テーマ | 通学路や交差点の整備 |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

　第一に、家の近くに、交通事故がよく起こる交差点があります。この交差点には、信号機がありません。この交差点のように、事故が起きやすい場所に信号機を設置してほしいです。信号機があれば、事故が起きにくくなるはずです。また、私の学校の前には、信号機が無いために、生徒が渡れない横断歩道があります。多くの生徒が、毎日重たい荷物を持ち、道路脇の歩道橋を通っています。このように、生徒が通る場所にも信号機を設置してほしいです。

　第二に、朝、通学路を歩いていると、車が歩行者用の白線の内側まで入ってくることがあります。この道は、車２台がぎりぎりすれ違えるくらいの道幅です。車が猛スピードで迫ってきて、接触しそうになったこともあり、大変危険です。だから、ガードレールを設置してほしいと考えます。道が狭すぎて、ガードレール設置が難しい場合、目の錯覚を活用した白線（浮き上がって見える線）を引くなどすると、事故が減ると思います。目の錯覚を利用した白線は現在、静岡県と京都府などにあります。

　第三に、通学路や交差点を歩いているときに、車の接近に気づかないことがあります。だから、カーブミラーを増やしてほしいです。歩行者だけでなく、運転者の役にも立ちます。

　生徒が安全に通れる道は、大人や高齢者たちにとっても安全な道です。今挙げた以外にも、危険な道があれば直してほしいです。日々の通学・通勤の安全を守る道になるように、ご検討よろしくお願いします。

**答弁：**

　事故が起きやすい場所に信号機を設置してほしいとのご提案につきましては、信号機は警察庁が定める設置基準に基づき、県の公安委員会が設置を検討するものであり、設置を要望する場合は、地域の方の意見として自治会など地域団体から警察署にご相談いただくことになります。

　ヒアリングの際にご指摘があった御殿山歩道橋下(した)の横断歩道につきましては、過去に地元自治会を含め複数の団体から本市に横断歩道移設と信号機新設依頼の要望書提出を受けて、警察署と本市で協議や現地調査のうえ、電柱撤去や階段登り口の整備を行い、現在の位置に横断歩道を移設したものです。信号機の新設については、交通量や見通し、高架橋に近いなどの道路状況により、設置が出来なかった経緯があります。

　なお、今回のご要望については、本市から宝塚警察署にお伝えします。一番大切なことは、皆さんが交通事故に遭わないことですので、武田議員をはじめ皆さんも交通ルールを守り、注意して登下校していただくことをお願いします。

　次に、ガードレールの設置について、ヒアリングの際にご要望いただいたＪＲ宝塚駅東側の踏切から北進する清荒神宝塚停車場線は道路の幅が狭いため、ガードレールの設置は難しいと考えています。

　また、ご提案いただいた目の錯覚を活用した白線は、運転者が何度も通行して見慣れることにより、速度を抑制する効果が低下するため、本市では採用していません。

　代わりに道路の端を緑色に塗る、交差点全体を赤い舗装で目立たせるなどの対策を行っています。

　次に、カーブミラーの設置について、カーブミラーは車の運転手が他の車を確認することを目的としています。

　カーブミラーの設置については、自治会や地域の方からの要望があった場合に、まず、事故の防止に有効か、また、カーブミラーを設置できるか確認しています。

　なお、カーブミラーは、曲がり角における道路状況の全てが映っているとは限らず、道路状況を確認する補助的なものです。カーブミラーが設置されている場所でも、歩行者は曲がり角での左右の安全確認は、自分の目で行い、十分に注意して通行しましょう。

**進捗状況：**

完了

**進捗状況説明欄：**

信号機設置に関する今回のご要望について、市より宝塚警察署へお伝えしました。

都市安全部（防犯交通安全課）

**進捗状況：**

完了

**進捗状況説明欄：**

ガードレール、カーブミラーの設置について、引き続き適切に設置の検討を行っていきます。

都市安全部（道路管理課）

担当部：環境部（クリーンセンター管理課・ クリーンセンター業務課）

| 議員名 | 秋山　花 | テーマ | 宝塚市のごみの回収方法について |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私は、宝塚市のごみの回収方法について、２つの提案をします。保健体育の授業で、ごみの分別回収の重要性について学んだことで、宝塚市でも循環型社会を目指すための取り組みを行うべきだと考えました。

１つ目は、指定ごみ袋制度の導入です。これは、自治体が指定したごみ袋でないと、ごみの収集を行わない制度のことです。ごみ袋を指定、かつ有料化することで、ごみの減量につながると考えます。さらに、袋を可燃ごみ用と資源ごみ用にわけることで、ごみの分別にもつながると考えます。実際、西宮市は2022年度にこの制度を導入し、前年度の同月と比べ可燃ごみの減少、資源ごみの増加がみられました。また、ごみ袋の代金を市の収入とすれば、それを使いごみ収集の更なる利便化を目指すこともできるでしょう。

２つ目は、世帯ごとへの番号の振り分けです。具体的には、番号が印刷されたごみ袋を市役所で購入し、誰がごみ出しのルールを守れていないかわかるようにするというものです。ごみ出しのルールを破る人がいるのは、個人を特定されることがないから、というのが大きな理由だと考えます。ルールを守っていない人が誰かを明確化し、市から直接注意をすることで、市民のごみのルールに関する意識を高めることができると思います。また、市が番号を振り分けることで、市民同士は誰が何番かを把握しづらく、プライバシーを侵害されることは無いと考えます。

**答弁：**

　指定ごみ袋制度の導入とのご提案につきましては、本市では、ごみの種類ごとに透明又は半透明の袋に入れて出していただいています。これは、袋の中身が確認できることで、分別の徹底やごみの減量のほか、危険物が混ざっていないかなど、収集作業の安全に配慮したものです。

　本市におきましても、地域の方や事業者の皆様のご協力のもと、ごみの適正処理及び減量化・資源化の方法として、ごみになるものを減らす「リデュース」、ごみにせず繰り返し使う「リユース」、ごみを資源として再生利用する「リサイクル」の3つの頭文字をとった３Ｒを推進するために様々な施策に取り組んでいるところです。

　現状では、市民の皆様のご協力によりごみの排出量は毎年減少しています。

　秋山議員のご提案のとおり、有料の指定ごみ袋制度は、ごみ分別とマナーの徹底、ごみのリサイクルに意識をもっていただくなど、分別排出の徹底やごみの減量の推進に有効な方法のひとつであり、循環型社会を目指す取組として素晴らしいものです。

　現状においては、ごみの排出量が減少していることや、ごみ袋を有料化することで収入よりも経費が上回ることから、すぐに導入する予定はありませんが、今後の社会情勢の変化やごみの排出量の動向を見ながら、西宮市をはじめ、先進市の状況について引き続き、調査、研究していきます。

次に、番号付きごみ袋の使用とごみ出しルールの徹底につきましては、本市では、ごみの減量とリサイクル等を推進するために、本市ホームページやごみの出し方・分け方ハンドブック、ごみの分別アプリ「さんあーる」などを通じて、市民の皆様にごみを分別して出していただくようお願いしています。

　ご提案されている、ごみを出した人を特定するために、市で各世帯に番号をつけるアイデアは、ごみ出しのルールを徹底する上で有効なものだと思います。しかしながら、市内に8,000箇所以上あるごみステーションで、ごみ袋の中身を一つ一つ確認し、ルールを守られていない世帯に注意を行うことや、市で各世帯に新たな番号を付け管理を行い、世帯情報の記載されたごみ袋を市で販売することは、現状では難しいと考えます。

　本市ではごみステーションにごみを出される場合は、ごみ袋への記名等を行う必要はありませんが、透明又は半透明で出されたごみが、分別されていない場合や、曜日を間違えて出されている場合などはごみを回収せず、「分別ができていません」「曜日を間違えています」などの理由を記したシールを添付して、ごみステーションに残しています。

　このシールをご覧いただき、ご自身が出したごみがなぜ回収されなかったのかを知ることで、ごみ出しルールへの意識が高まり、ごみの分別やリサイクルの推進につながると考えています。

ごみの分別には資源化を進めるだけでなく、ごみの減量の効果もありますので、今後も引き続き正しいごみの分別について周知を続けていきます。

**進捗状況：**

継続

**進捗状況説明欄：**

　指定ごみ袋の導入は、ごみの分別の徹底を励行する取組であることから、すでに導入している先進市への視察などの調査研究を行っております。

　各家庭に番号を付けることに関しては答弁書のとおり今後も難しいと考えています。

　ただ、間違った日に出されたごみや分別できていないごみなどに関しては、今後も啓発シールを貼ってごみステーションに残し、誤ったごみを出された市民に対する周知を継続していきます。

環境部（クリーンセンター管理課・ クリーンセンター業務課）

担当部：都市安全部（道路整備課）

| 議員名 | 宮本　悠史 | テーマ | 自転車と歩行者の安全について |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私は今回、宝塚市にもっと自転車専用道路を作ってもらえるよう要望をしたいと思います。

毎日下校などで道路を通行するとき、危険な走行をする自転車をよく見かけます。今の日本では、自転車が二人に一台の割合で普及しています。そんな自転車がよく使われる日常で、歩行者と自転車が事故を起こす可能性は大いにあります。だから、宝塚市を、事故無く安全に自転車が乗れる町にしたいと思い、今回の提案をしました。

山手台中学校の校区は下り坂が多いので、スピードを出す自転車が多く、また歩行者がいる歩道での危険運転が見られます。反対に、歩行者に配慮して車道を走っている自転車も、車道のど真ん中を通り通行する自動車の邪魔になっており、非常に危ないと感じます。

私はこの問題の解決方法として自転車専用道路を増やすことを提案します。自転車専用道路を作ることで、歩道や車道を走っていた自転車も専用道路を走るようになり、歩行者と自転車、自動車の三者の安全を守ることができます。ただ問題点として、道幅を広げ自転車専用道路を作る工事に多くの費用が掛かると思います。だから歩行者の多い通学路などから順番に作ることで、数年単位で整備を進めてほしいと思います。人の安全と工事の費用のバランスを考え、できるだけ人の命を優先するよう自転車専用道路を作ってください。

**答弁：**

安全に自転車に乗ることができる町にするために、自転車が通る場所を作ったほうが良いとのご提案につきましては、私も自転車事故を防ぐことについて同じ考えを持っています。

自転車は平坦な道路での利用が多いことから、本市では阪急今津線より東側と阪急宝塚線より南側の区域で、自転車の利用が多い路線などを対象に、車道の左端を青色に塗るなどの自転車通行空間の整備を計画に基づいて順番に進めており、今年度は安倉中学校区にある市道安倉線を整備する予定です。

宮本議員からご提案のあった阪急山本駅から山手台中学校へ続く市道3259号線は、坂道のために自転車を利用する人が多くはないことから、まだ自転車レーンなどを整備する予定がありませんが、最近は電動自転車を利用する人が増えていることから、計画の見直しをする時は、山手地域も含めて考えたいと思います。

なお、市道3259号線を整備することとなった時は、道路にある街路樹を撤去して自転車通行空間を確保しなければならないので、地域の方とよく話し合って進めていきたいと思います。

**進捗状況：**

継続

**進捗状況説明欄：**

自転車通行空間の整備について、計画的に整備工事を実施しています。また、整備の進捗に合わせて計画を見直します。

都市安全部（道路整備課）

担当部：健康福祉部（健康推進課）、環境部（生活環境課）

| 議員名 | 北川　亜咲 | テーマ | 路上喫煙禁止区域の拡大について |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私は「宝塚市ぽい捨て及び路上喫煙の防止に関する条例」にある路上喫煙禁止区域を、現在の「阪急・JR宝塚駅周辺及び花のみち市道上」から「宝塚市全域」に変更することを提案します。

ここでいう路上喫煙は当条例にある通り、自動車内や設備のある場所を除く公共の場所において喫煙すること及び火のついたタバコを所持することを指します。

現状、路上喫煙は「しないように努めなければならない」とだけ当条例で定められており、私は区域外での路上喫煙やそれに伴うぽい捨てを頻繁に見かけるため、改善する必要があると強く思いました。

この変更を提案する理由は２つあります。１つ目は健康の観点から見た路上喫煙についてです。路上喫煙は火傷や衣類の焦げ、受動喫煙などの被害を引き起こすことがあります。厚生労働省のウェブサイトによると、受動喫煙は涙や頭痛だけでなく肺がんなどのリスクを高める可能性があり、喫煙を巡る訴訟は全国でも事例があります。２つ目は美化の観点から見た路上喫煙についてです。公益社団法人食品容器環境美化協会のウェブサイトによると、首都圏・近畿圏市街地の散乱ごみでタバコの吸い殻が占める割合は全体の約４０％台半ば～６０％弱です。

これらの理由から、私は路上喫煙禁止区域を「宝塚市全域」に変更することを提案します。

**答弁：**

「宝塚市ぽい捨て及び路上喫煙の防止に関する条例」にある路上喫煙禁止区域を宝塚市全域へ拡大するとのご提案につきましては、本市では、2015年7月から施行している「宝塚市ぽい捨て及び路上喫煙の防止に関する条例」により、路上喫煙は火のついたたばこによって身体や財産に危険を及ぼすおそれがあることから、人通りの多いＪＲ・阪急宝塚駅及び花のみち周辺を路上喫煙禁止区域に指定しています。

また、たばこを吸う方と吸わない方が共存できるよう、同区域内に指定喫煙所を整備するとともに、たばこを吸う方へのマナー啓発を行っているところです。

さらに、国民の健康の増進を図るための健康増進法や、県の受動喫煙の防止等に関する条例などに基づいて、望まない受動喫煙による健康被害がおこらないように、本市のホームページやSNSを通して受動喫煙の悪影響について知ってもらうとともに、人通りの多い場所に設置されている灰皿の撤去をお願いすることや、通学時間帯の喫煙を控えるようポスターを掲示するなどの取組を行っています。

他にも、市内の小・中学生を対象に喫煙予防講座を実施し、たばこの害について正しく理解してもらうことで、将来喫煙しようと思う人を減らすことや、喫煙をすすめられたときに断る方法を学んでもらえるような機会を設けています。

北川議員のご提案の市全域を路上喫煙禁止区域に変更することは、個人の土地や道を規制対象に加えることになることから、慎重に検討する必要があります。ただし、ＪＲ・阪急宝塚駅以外の駅周辺など公共性が高く人通りの多い場所については、路上喫煙やぽい捨ての実態に応じて禁止区域への指定を検討していきます。

**進捗状況：**

完了

**進捗状況説明欄：**

　望まない受動喫煙による健康被害がおこらないように、通学路等へのポスター掲示や本市のホームページ・ＳＮＳを通した受動喫煙の悪影響についての啓発、灰皿の撤去のお願いを継続しています。市内の小・中学生を対象にした喫煙予防講座については、令和6年度は3回、令和７年度は４回実施しました。今後も継続して受動喫煙による健康被害の防止に努めます。

健康福祉部（健康推進課）

**進捗状況：**

継続

**進捗状況説明欄：**

　公共性が高く人通りの多い場所について、路上喫煙やぽい捨ての実態把握に向けて検討しているところです。

環境部（生活環境課）

担当部：都市安全部（道路管理課）

| 議員名 | 加納　あかり | テーマ | 学校周辺の歩道の整備 |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私の通学している宝塚市立養護学校では、児童・生徒会が中心となって、提案内容を相談しました。いくつかの意見が出ましたが、今回は地域とも関係が深い内容を提案したいと思います。

養護学校の児童・生徒は車椅子で生活している人がたくさんいます。先日、徒歩で校外学習に出かけた学部がありました。その時に安倉小学校周辺の歩道がとても歩きにくく不便に感じたそうです。車椅子での移動では、ちょっとした坂道や段差、小さな石ころがころがっていたりしても、なかなかスムーズに進めなかったり、車輪がかたむいて不安定になったりします。近くには、安倉小学校や安倉中学校もあって、養護学校だけでなく、多くの人々が利用する歩道だと思います。

私も実際に車椅子で通ってみました。自力で移動することもできるのですが凸凹が多くて、とても不安定なので先生に押してもらいました。それでも体がかたむいて、ドキッとする場面がありました。

凸凹や傾斜のない安全で安心して通行できる歩道に整備して欲しいと願っています。地域の人々にとっても歩きやすい歩道になってほしいです。

すぐには無理かもしれませんが、いつか願いがかなうとうれしいです。

**答弁：**

市立養護学校周辺の歩道の整備のご提案のうち、歩道の凸凹につきましては、歩道に街路樹が植えられている道路では、その街路樹が大きくなって、根が歩道の舗装を押し上げることで凸凹が生じ、車いすや高齢者の通行の妨げとなる場合があります。

市立養護学校周辺では、南側の歩道の舗装に大きな凸凹が生じている箇所の修繕を実施していきます。

次に、歩道の傾斜につきましては、道路から沿道の施設への出入り口付近では、車両が出入りできるように、車道と歩道の高低差をつなぐように傾斜が設けられています。

しかし、車道と歩道の高低差が大きい道路では、傾斜が急勾配となるため、車いすの円滑な通行の妨げとなっている場合があります。

このため、本市では車道全体を歩道の高さまで上げて、傾斜を緩める道路バリアフリー化整備事業を実施しています。2024年度は安倉南１丁目の約130メートルの区間の工事と星の荘の約300メートルの区間の設計に取り組んでおり、2025年度以降にその工事を始める予定です。

市立養護学校の南側の道路については、具体的な整備計画は未定ですが、今後も継続して安全で安心して通行できる歩道の整備に取り組んでいきたいと考えています。

**進捗状況：**

継続

**進捗状況説明欄：**

大きな凹凸がある舗装について、令和7年度に工事を完了しました。

バリアフリーについては、引き続き事業を継続していく予定です。

都市安全部（道路管理課）

担当部：教育委員会（学校教育課）

| 議員名 | 坂元　優太 | テーマ | よりよい高校生活を送るために |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

私は今、楽しく高校に通い、将来の進路志望に向けて毎日頑張っています。今回市議会でお話する機会を得て、私の経験を元に提案をさせていただきます。

高等学校に入学した４月後半から５月中旬までの間、私は不登校になってしまいました。これは、中学と高校のギャップを感じ、精神的に辛くなり、通うことができなくなったからです。具体的には、雰囲気や授業のやり方の違いが挙げられます。その後、両親や先生方に助けていただき、少しずつ通うことができるようになりました。高校生活が１年間経った現在、毎日元気に通っています。

私のように中学と高校の違いに苦しんだり不安を感じる生徒は多いと思います。私はこのような生徒を減らしたいです。そこで、２つの提案をさせて頂きます。まず一つ目に、中学３年生の合格発表が終わった後、進学先の高校１年生の先輩方との交流会を開催することです。そうすることによって、進学先の生徒の雰囲気が分かり、高校生活を生徒目線で事前に知ることができます。次に、宝塚市内の高校の生徒や先生方に市内の中学校で定期的に説明会を行っていただくということです。そうすることによって、市内の高校に関する情報や生徒の雰囲気を知り、学校選びに生かすことができます。説明会があれば、学校を身近に感じられ、生徒たちの不安が減り、宝塚市内の高校への進学につながります。

学校への不安や不登校は簡単に取り除くことはできない問題ですが、前述したような策を講じることで、少なからず予防と解決に近づくのではないでしょうか。以上、ご検討を宜しくお願い致します。

**答弁：**

まず、中学校3年生の合格発表後に、進学先の高校1年生の先輩方との交流会を開催するとのご提案につきましては、コロナ禍では多くの高等学校がオープンハイスクールを中止していましたが、現在は5月頃から12月頃にかけて実施しており、高校生と中学生の交流や模擬授業が行われています。また、合格発表後、高等学校は新入生に向けて登校日を設定するなど、新入生が安心して、高校生活を過ごすことができるように取り組まれています。

次に、市内高等学校の生徒や先生方が市内の中学校で定期的に説明会を行うことにつきましては、2015年度から、県下の高等学校の通学区が16学区から5学区に再編され、1学区あたりの学校数が増えたことから、中学生にとって、幅広く志望校を選ぶことができるようになりました。その結果、市内の学校以外にも進学する生徒が多く、中学校での説明会の実施よりも生徒自らがオープンハイスクールに参加することで、高等学校までの実際の通学経路や環境、学校の雰囲気などを事前に知ることができ、不安解消につながるものと考えています。

また、卒業生が、母校で受験勉強の方法や高等学校の生活について体験談を話す機会を作っている学校もあります。

坂元議員のご提案にあるとおり、今後も中学生が安心して高校生活を過ごすことができるよう進路指導や、進路に関する情報提供に努めてまいります。

**進捗状況：**

完了

**進捗状況説明欄：**

令和６年度も各中学校では３年生に向けて、オープンハイスクールの案内を周知しました。オープンハイスクールに参加し、体験授業や学校見学を踏まえて志望校を決定するように各校で生徒に指導しています。また、今年度も進路指導を充実させるため、中学校進路担当の教員と市教育委員会で協議、情報交換をしました。

教育委員会（学校教育課）

担当部：教育委員会（スポーツ振興課）

| 議員名 | 澤邉　莉桜 | テーマ | 子供の社会性 |
|---|---|---|---|

質問・提案内容（あらまし）と答弁後の対応

**質問（提案）：**

現代社会において子供達は、基本的な生活習慣や態度が身についていない、他者との関わりが苦手、運動能力が低下している等と、様々な課題を文部科学省が挙げています。その中でも私は特に、「他者との関わり」「運動能力の低下」の２つの課題に視点をおいて考えてみました。これらの問題に共通することはスマートフォン等の普及による影響です。現代の子供達はテレビゲームやオンラインゲームで遊ぶことにより人と関わることが減少してしまい、また外で遊ぶ機会も減ってしまいます。その結果、健康面での問題が増加しているのだと考えられます。そこで私は、末広公園での地域型スポーツクラブを提案します。このイベントでは子供達が他者と関わりつつ運動できる環境を作ることができます。市が運営することにより、子供達は自分とは違う学校に通う子供と交流するきっかけとなり、様々な人と話す機会を増やすことが可能になります。そのうえ体を動かすことにより基礎体力や社会性を養うことができます。身近な公園で地域型スポーツクラブを行うことによって宝塚市の子供達は他者との関わりを学びつつ運動能力を向上させることができるようになるのではと考えます。市全体で子供達の成長を支えるためには学校や家庭等、周りの人達と一体となって環境を整えることが大切です。また、他者と関わる大切さを知ってもらうためには子供達自身にも実際に様々な人と遊び学ぶ必要があると私は考えます。

**答弁：**

末広中央公園での地域型スポーツクラブを作るとのご提案につきましては、現在、末広中央公園は市民の憩いの場、遊びやレクリエーションの場として開放しています。今後普段関わりのない学校の生徒たちとの交流のきっかけづくりとなるスポーツイベントなどの参考にさせていただきます。

身近なスポーツの場としては、地域の方の健康増進と地域活性化や青少年の健全育成を図ることを目的に、県下では、各小学校区に設置される総合型地域スポーツクラブである「スポーツクラブ21」があります。本市でも、小学校全23校の校区において活動されており、「だれもが、いつでも、身近なところで」スポーツができることを目指しています。

また、市立スポーツセンターや末広体育館は、運動能力の向上に加えて、幅広い世代での交流を通じて、子どもたちの社会性を育むことができるスポーツ施設です。これらの施設を有効に活用し、多くの人が身体を動かし、交流することで、人と人とのつながりの大切さを実感できる施設となるよう努めていきます。

澤邉議員も、身近な地域スポーツクラブの見学やスポーツ施設を利用いただき、知り合いの方にもご紹介くだされば嬉しいです。

**進捗状況：**

継続

**進捗状況説明欄：**

スポーツクラブ２１については、現在も小学校２３校区で活動しており、多くの方に参加していただいています。また、老若男女が一緒にできるニュースポーツとしてカローリングの大会や、公式わなげやモルック等のニュースポーツの体験会を開催し、こちらも多くの方に参加いただいています。今後もこれらの取組を継続して実施し、多くの方が参加いただけるよう周知に努めていきます。

教育委員会（スポーツ振興課）